

「利根川水系利根川・江戸川河川整備計画（原案）」に対する公聴会

平成25年 2月25日（月）10:00～10:15

利根川上流河川事務所2F大会議室

発言者：公述人1

私は、栃木県小山市在住しております■■■■と申します。利根川・江戸川河川整備計画の原案について意見を述べさせていただきます。私の住んでいる地域は、広大なヨシ原の渡良瀬遊水地、思川、巴波川に囲まれた自然豊かな環境に恵まれており、周辺地区はおいしいお米のとれる産地として田園風景のすばらしいところでもあります。しかしながら、台風の季節になると毎年のように河川が増水し、利根川、渡良瀬川の水位が上がると、思川や巴波川に逆流をし、洪水に不安を募らせて生活をしているのが現状であります。昭和22年のカスリーン台風の時、私は11歳で、今でも堤防の決壊する状況を鮮明に覚えております。当時の私たちの地域の住宅は、かやぶき屋根が多く、基礎といえば今みたいにコンクリートではなく、玉石の上に土台を載せているだけの家が多く、かやぶき屋根のひさしまで水がくると家が浮きだし、洪水に押し流されてしまいました。144棟の家屋が流出し、55棟の全半壊等、大きな被害を被りました。また、11名の方が亡くなり、その惨々たる状況は65年を過ぎた今でも忘れようとしても忘れられない状況でございます。近年は、異常気象の大雨による災害が各地で起きていますが、当地域でも平成10年の台風の際は、思川乙女観測所で警戒水位を超え、一部の地域では避難勧告も出され、また、平成14年の台風では危険水位を超えてしまい、巴波川では漏水も発生し、破堤してもおかしくない危険な状況でありました。特に、私たちの住んでいる地域、小山市南西部は思川と巴波川の最下流部に位置し、万が一の洪水の際には浸水深が5m以上とハザードマップで想定され、その範囲も非常に広く甚大な被害が想定されているのにもかかわらず、地域の中には避難する場所がありませんので、不安な毎日を過ごしております。河川整備計画におきまして、次の件をおり込んでいただきますようお願い致します。1つ、堤防破堤等による緊急時には一時的に住民が避難できる緊急避難場所、それと防災ステーションの設置。2つ、渡良瀬遊水地第2調節池において、掘削による治水容量の確保及び掘削土による堤防強化。3つ、思川・巴波川の河床掘削や河道内樹木の伐採による流下能力の確保及び堤防強化。一級河川与良川の全面改修及び整備。4つ、渡良瀬遊水地ラムサール条約湿地登録を活かした周辺地区の湿地保全・再生に十分配慮した環境整備。私たちの地域が1日でも早く安全で安心して生活できる地域になりますよう、よろしく願いいたします。

以上